

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0191500024		
法人名	医療法人社団健亮会光銭医院		
事業所名	グループホーム杉の木		
所在地	上磯郡木古内町字本町704 (電話) 01392-2-3335		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年9月16日	評価確定日	平成19年9月26日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム杉の木は、開設して1年に満たない新しいホームである。JR木古内駅から徒歩5分と交通の便が良く、建物は旧老健施設の2、3階を全面改装し、新老健施設の棟続きとなっている。近隣に協力医療機関の町立国保病院があり、運営母体も医療機関であるため、利用者及び家族の医療面での安心感は強い。ホーム内は明るく開放的な造りで、杉の木目を生かした内装が落ち着いた雰囲気を与えている。居間及び全ての居室の大きな窓から津軽海峡を見渡すことができる。医師である運営者は休日でも毎日ホームを訪問し、管理者とともにケアサービスの向上に熱意を持って取り組んでいる。職員は利用者を自分の家族と考え、一人ひとりの思いを大切にケアを行っている。利用者もゆったりと自分のペースで毎日の生活を楽しんでいる。

【情報提供票より】(平成19年8月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年10月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	14 人	常勤6人, 非常勤8人, 常勤換算16.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3階建ての	2・3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費19,000円 (暖房費10月~4月) 7,000円 その他日常生活費 9,000円
敷金	有( )	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり(月額/当月日数)×日数 (月額36,000円)			

(4) 利用者の概要(8月29日現在)

利用者人数	11名	男性	5名	女性	6名
要介護1	1	要介護2		2	
要介護3	4	要介護4		2	
要介護5	2	要支援2			
年齢	平均 77歳	最低	60歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団健亮会光銭医院 木古内町国保病院 阿彦歯科医院 他
---------	---------------------------------

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム開設間もないため、今回の外部評価が初回である。今回の自己評価の実施には職員全員で取り組んだ。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の実施には職員全員で取り組んだが、今回は初めての自己評価であり、管理者が主体となって自己評価表を作成したが、今後は、職員が中心となって自己評価表を作成する予定である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	開設して1年に満たないが、運営推進会議は既に3回実施されており、参加者からの質問も活発だが、内容はホーム側からの説明が中心となっている。次回の運営推進会議には、今回実施した評価内容を議題にし、参加者にモニターの役割をお願いするなどの試みを行い、今後のサービス向上に生かしていくことを予定している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時には気軽に話し合える雰囲気作りに努めている。正式な苦情の窓口を設けており、提出された意見・要望に関してはミーティングなどで話し合い反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の関係で町内会の活動等は特にないが、地域の祭りや商工会主催の敬老ビアガーデンの行事に参加するなど交流は盛んである。また、ホーム主催の行事や日本舞踊のボランティアがホームを訪問してくれた時には、電話や口頭で近隣の住民にも参加を呼びかけている。今後は地域の中学や高校に呼びかけ、学生ボランティアを受け入れていく予定である。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は分かりやすく明快な内容とし、職員全員で話し合い充実に向けて取り組んでいるが、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容にはなっていない。	○	今後は、地域との関係性が重視され、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容であると全員が確認できるよう、表現や表示方法を工夫していくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホーム内の見易いところに掲示してある。また、管理者が定期的なホーム会議で理念について話し、日常の実践の場で確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の関係で町内会の活動等は特にないが、地域の祭りや商工会主催の敬老ビアガーデンの行事に参加するなど交流は盛んである。また、ホーム主催の行事や日本舞踊のボランティアがホームを訪問してくれた時には、電話や口頭で近隣の住民にも参加を呼びかけている。	○	今後は地域の中学や高校に呼びかけ、学生ボランティアを受け入れていくことを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施には職員全員で取り組んでいるが、今回は初めての自己評価及び外部評価のため、管理者が主体となって自己評価を作成した。	○	今後は、職員全員が自己評価及び外部評価の意義をより深く理解し、管理者の指導のもとに、職員が中心となって自己評価を作成していく取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設して1年に満たないが、運営推進会議は既に3回実施されている。内容はホーム側からの説明が中心となっているが、参加者からの質問も活発である。	○	次回の運営推進会議には、今回実施した評価内容を議題とし、参加者にはモニター役をお願いして、今後のサービス向上に生かしていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームを開設するきっかけは町からの依頼であり、建物も旧老健施設を改装して利用している。町との連携は密接である。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の状況について話し、必要時には個別に電話や手紙で連絡している。また、金銭出納明細は家族の訪問の都度、1ヶ月に1度は確認してもらっている。利用者の写真を掲載した「便り」は今年から第1回目を発行したが定期的な発行にまでは至っていない。	○	まずは、3ヶ月に1度、年4回「便り」を発行することを目標に、それ以後は段階的に発行回数を増やしていくことを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には気軽に話し合える雰囲気作りに努めている。正式な苦情の窓口を設けており、提出された意見・要望に関してはミーティングなどで話し合い反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員の退職はない。新しい職員が入ったときには、利用者一人ひとりに紹介し、家族等には訪問時に報告・説明している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のケア会議で管理者が講師となり学習会を行っているほか、外部研修にも、現在までほぼ半数の職員が参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や運営者の関係するグループホーム間で、管理者と職員の相互見学を行い、交流を図っている。	○	今後も他の事業者と話し合い協力し、相互にホームを訪問し合えるような仕組みづくりの検討を期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人及び家族にホームを見学してもらっている。3、4回見学してから入居した利用者もいる。入居後は家族から利用者の情報を入手し、個人の特性や状況に応じて臨機応変に対応し、利用者の不安を解消するよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が共に寄り添って生活していくという意識を持ち、コミュニケーションを図っている。利用者に昔の話、特に地元の事で職員の知らないことを教えてもらい、株式に詳しい利用者からは専門誌の読み方を、習字の得意な利用者には書き方の指導をしてもらうなど利用者の経験や知恵から職員が学ぶことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>					
<p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との日々のかかわりの中で、会話や表情から一人ひとりの思いや意向について把握しようと努めている。仏壇には仏花をお供えすることが多く、野の花を飾ることもある。彼岸などの行事には、おはぎなどの菓子を手作りしてお供えしたり、お墓参りやお寺参りに職員が同行するなど、利用者の思いに添ったケアを実施している。</p>		
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成担当者と利用者及び家族、職員全員が話し合い協力しながら介護計画を作成している。毎月のホーム会議で介護計画のモニタリングやカンファレンスを行っている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>開設から間もないこともあり、介護計画の見直しはまだ定期的に行われていない。利用者の状況の変化に応じて見直しをしている段階である。</p>	○	<p>状態変化のある利用者を中心に、基本的に6ヶ月ごとの見直しを定着させていくことを期待したい。</p>
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族が付き添えない時の医療機関への同行・受診の介助、墓参りやお寺参りや個別の買い物への添いなど、きめ細かく柔軟な支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ受診可能なことは入所時に説明し、利用者が希望するかかりつけ医・医療機関に受診できるよう支援している。運営者の医師による訪問診療は2週間に1度定期的に行われているほか、協力医の訪問診療も随時行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けて、入所契約時に書面を提示して指針の説明を行い、同意書も用意されている。終末期への対応に関しての整備は進んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録は所定の場所で管理しており、職員の採用時には個人情報に関する誓約書をとっている。職員の言葉遣いにもプライバシーを損ねるような表現はないが、面会簿が1階玄関入り口に一覧表の形式で置かれている。	○	面会簿を個別記載の形式へ変更し、他の来所者の目に留まらない方式に変更することを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝の時間、食事時間など一定のルールはあるが強制ではない。その日の状況により、朝早くから食事を希望する利用者には早めに食事を取ってもらうなど、一人ひとりのペースに合わせて個別に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理や後片付けをしながら楽しく食事をしている。利用者の状況に応じて個別に味付けを変化させたり、きざみ食を提供している。職員の1人が毎回食事ごとに検食を行い、カレーや混ぜご飯などのメニューでは職員全員が利用者と一緒に食事をしている。	○	通常のメニューの時でも、職員が利用者と同じ食卓を囲んで同じものを楽しみながら食べることを検討することが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、朝食後と昼食後の時間帯に入浴できる体制を整えている。利用者は、希望すれば毎日でも入浴できる。入浴を拒否する利用者でも、最低週2回は入浴してもらうようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、一人ひとりの希望や身体能力に応じて料理の下ごしらえ、掃除などの役割を受け持っている。また、縫い物やカラオケ等の個々の趣味の活動を支援している。誕生会は、同じ月でも日にちが違えば一人ひとりについてお祝い会を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季以外は、ホームの周辺を散歩するなど週に1回以上は外出している。花見など車で遠方に出かけることもある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。ユニットによっては、チャイムを設置し、利用者の出入りが察知できるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。消防署や棟続きの施設等と直結したシステムがあり、災害時は敏速な救援活動が期待できる。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、摂取カロリー、水分摂取量に配慮した支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔が保たれており、不快な音や臭いは感じられない。大きな窓からは津軽海峡が見渡せるなど居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際しては、自宅から利用者の使い慣れた家具や生活用品・装飾品を持ち込んでもらっており、居心地の良い生活の場となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。